

■決算・予算総会、万一の時のQ & A

・人事について

Q：各委員はどのように選ばれるのか。

A：各学年単位で互選によって選ばれます。

今年度も、PTA会員全世帯の8割の方に引き受けていただいております。

みなさまがたにおかれましても、積極的にご協力ください。

Q：役員はどのように選ばれるのか。

A：各学年と教職員、実行委員から選ばれた、役員推薦委員会によって推薦され、通常総会で決定します。

また、今日、この場での立候補していただくことも可能です。

Q：役員や実行委員経験者も多い反面、全く引受けようとしない人もいるが。

A：過去のデータにより、できるだけ重複しないようにお願いをしていますが、いろいろな事情により、そのような傾向が出ているのは事実です。

PTA世帯数が減少しており、社会事情が大きく変化している中では、従来とは違ったPTAづくりのため、本年度においては常置委員会活動の見直しをおこないました。

これは、誰でもが担えるPTAを目指したものです。

見直しは、これだけにとどまらず、誰でもが担えるPTAになるような、組織、活動にしてゆきたいと考えています。

ご意見はもちろんのこと、積極的にご参加をお待ちしています。

Q：委員や役員にはなりたくない

Q：委員や役員ができない

A：私達は、「できることは、無理せず頑張ってやろう」を合言葉にしていまいりました。

会員数が減少してきています。みなさん全員の力を必要としています。

ご支援、ご協力をお願いします。

しかし、ひとつの考え方として、近いうちには当番制導入も考えなければならないという意見もでてきています。

・活動に関して

Q：PTAには入りたくない。

Q：PTAは必要無いと思うのですが。

A：あまりにも難しい質問で、すぐにお答えすることができませんが、保護者、先生と一緒に、親睦・交流を図り、子供たちのしあわせを願い、健やかな成長を願い活動しています。ご理解とご協力をお願いします。

Q：PTA活動に参加できない。

A：PTAの行事は日曜日や授業参観日を中心に開催しています。ご都合がつく範囲で、ご参加ください。

Q：地域との関わりは

A：子供会や青少年対策連絡協議会、福寿会のみなさんにご協力いただいているものもあります。

Q：PTA活動が活発でない(面白くない、マンネリ)。

A：知恵を出し合って、PTA活動しているつもりですが、これからもご要望をどんどんお聞かせください。

・会計に関して

Q：PTA会費は兄弟、それぞれで納入しなければならないのか。

Q：PTA規約では特に、口数の決まりがないが、10口以上納入しなければならないのか。

Q：PTA会費や金額に関する質問全般

A：児童数の減少もあり、経費を切り詰め、基本会費の値上げもせずにております。できる限りのご協力・ご支援をお願いします。

Q：PTA会費はどのように管理されているのか。

A：市教員委員会より準公金として扱うこととして通達が出ており、会計が管理し、会計監査委員会により適時、監査を受けています。また、年1回、市教育委員会・市PTA協議会に報告しています。

Q：PTA帳簿や伝票類は見る事ができるのか。

A：PTA会員の請求があれば、いつでもご覧いただけます。役員にお申し出ください。

Q：PTA会費はどのように使われているのか。

A：主にPTA行事、PTA新聞、区市PTA分担金など活動の費用に使用しています。

・ P T A規約改定に関して

Q：何故、改定しなければならないのか。

A：P T Aの現状として、会員世帯の減少、それに伴う人材不足が一番大きな課題となっています。

そのひとつとして、毎年役員、実行委員の選出が難しくなっています。

P T A活動見直しのひと区切りとして、まず常置委員活動に手を加え、「誰もが担えるP T A」への一歩目を踏み出していきたいと、P T A規約を改定することといたしました。

また、今後も活動の見直しは必要であり、P T A規約の更なる改定も必要とと考えています。

Q：保健体育・給食委員会分離した理由は

A：毎月の給食献立委員会と区P T A親善スポーツ大会など一年間通して、対外活動の多い委員会です。

委員会出席、練習、準備等を、現体制でこなすことは難しくなっており、「保健体育委員会活動」と「給食委員会活動」を分離させて、常置委員会間の活動バランス差を少しでもなくしてはどうかとの声がありました。

しかし、常置委員会の数を増やすわけにもまいりませんので、市・区P T A協議会の委員会構成を考慮し、「学級委員会活動」に「給食委員会活動」を取り込むことにいたしました。

Q：学年配分見直した理由は

Q：常置委員会の再編した理由は

A：たとえば、1年生というP T A活動経験の浅い人の中から、保健体育・給食委員会の委員長を選んで、引き受けていただくことも難しいことですが、先頭に立って、運営していただくことも難しいとの声がありました。

常置委員会の再編に加え、学年配分を一部組換えて、P T A活動経験の浅い人にも無理無く引き受けていただけるようにしました。

Q：常置委員数配分の見直し

A：同学年に相談する人がいないので、委員長一人が仕事を抱え込んでしまっていると、案じる声がありました。

現在の学級委員会活動から、各学年2名ずつは、今回の改定で「給食委員会活動」が加わるにしても多いとの判断で、学級委員を半分にして、各委員会の常置委員数を各1名増員し、常置委員会間の活動バランス差を少なくし、全体の組織力強化のためにおこないました

Q：学級委員を減らした理由は

A：学級委員会では、電話連絡網のスムーズな伝達のためといわれていましたが、もともと1学年に2学級あった時代に策定されたものとわかりました。

現在の学級委員会活動から、各学年2名ずつは、今回の改定で「給食委員会活動」が加わるにしても多いとの判断で、学級委員を半分にしました。